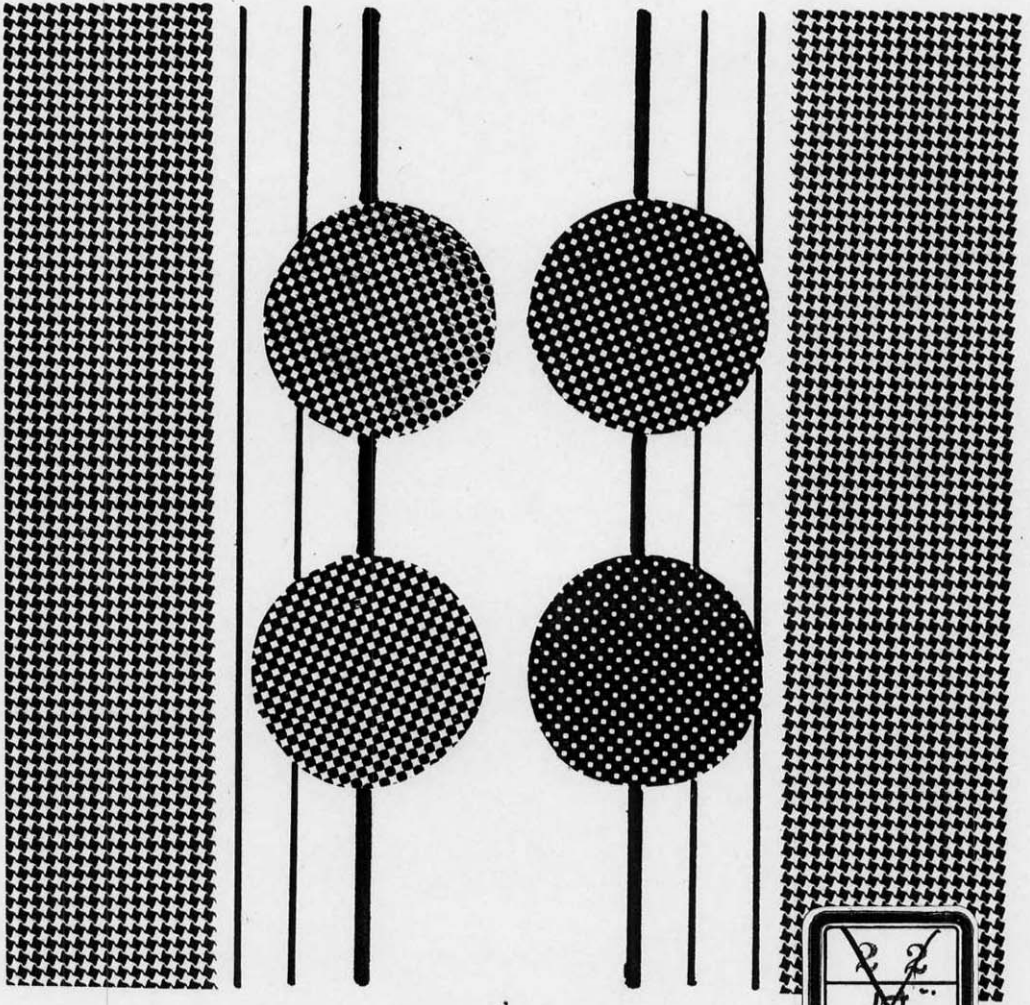
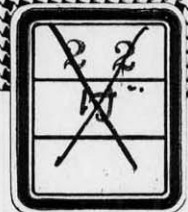


月報 岡崎の教育

51年度 NO.35~46



岡崎市教育委員会





広い大門のまん中に
 どっしりと立っている
 クリーム色の三階建ての校舎
 ばかりの学校
 大門小学校が生まれたのだ
 ホームランが
 いくらでもうてる運動場
 プーンといいにおいがする教室
 やっぱり新しい学校はいいな
 ぼくら二百六十一人、みんな
 「ありがとう」の気持ちでいっぱいだ。

(六年 平石博和)

昭和51年4月1日

編集・発行

岡崎市教育委員会



(よろこびの開校式・入学式 — 大門小)

— 教育随想 —

ピグマリオン効果

ハーバード大学の心理学者、ロバート・ローゼンタールは、心理学の専攻学生に同じ血統のネズミを任意に二等分し、五匹ずつ分担させ、半数の学生（Aグループ）には、「君たちのネズミは特別に迷路をうまく走るように訓練されている」と教示を与え、別の半数の学生（Bグループ）には、「このネズミは、遺伝的な理由で迷路をうまく走れないはずだ」と教示を与えた。結果は、同じ性能をもつネズミにもかかわらず、Aグループのネズミは最初から好調なスタートを示し、佳い成績を示したのに対し、Bグループのネズミは、スタートからつまづき、佳い成績をおさめることができなかったという。彼は、その理由として、「優れたネズミだ」という教示をうけたAグループの学生は、「そうではない」といわれたBグループの学生に比し、無意識のうちに、受持のネズミをより注意深く、ていねいに扱い訓練したからだという、学生生のネズミに対する態度差を挙げている。

さて、彼は、この予備実験を、実際の教室での児童に対する実験に発展させたのである。すなわち、小学校の各学年の担任教師に、ローゼン・タールが無作為に抽出した児童について、「この子供は伸びる可能性（学習能力）を持っている」との情報を何気なく与えた。すると八カ月後（学年末）、情報が与えられた児童は、与えられなかった児童に比し、学業成績などの向上がよりみられたという。そして、この結果の相違をもたらしたものは、「教師の児童に対する態度の差による」とし、「問題の鍵は、教師と児童との間の微妙な相互作用にあり、教師は、口調・表情・姿勢などを通じて自分の期待を生徒に伝えるのだ。そして、このような相互作用が、児童の自分自身に対する認識を変えていくのではないか」と述べている。すなわち、好意的期待をもつた生徒との間に、知らず知らずのうちに暖かい雰囲気をつくりだし、視線を多く向け、笑いかけ、うなずき、生徒の反応によく応答し、罰するより賞を与え、積極的に教え、生徒に反応のチャンスを充分に与えるよう配慮するからだというわけである。彼は、これを「ピグマリオン効果」と名付けた。さて、ピグマリオン効果とは彫刻をよくするキプロスの王のこと



沢田秀一

で、彼は、象牙で理想的な女性を彫り、これに恋し、現身に変じさせたいと一心に念じ（期待し）たところ、愛と美の女神ウイーナスに通じ、生けるガラテアとなり、彼女を妻としたという。すなわち、「ピグマリオン効果」とは、このギリシヤ神話の寓意からとったことばである。さて、このような経験は誰にでも思いあたるふしがあるのではなからうか。したがって、単に、抽象的・一般的なアイデアオロギーや理念とか、子供一般に対する考え方や態度の水準にどまらず、もっと具体的に、一人一人の子供たちを目の前にして、このような好意的態度や期待を、また、イメージをもって接しているか否かを自らに問うてみることも意味のあることであらう。

なお、この「ピグマリオン効果」は、単に、教師―生徒関係のみならず、教師同志の関係や、さらには、家庭や社会におけるすべての人間関係にあてはまる一面をもっている。

誠に、興味深い原理といえよう。
(愛知教育大学教授)

校訓

●一 生心に残ることばを

小林 義孝
私が小学校を卒業する頃、校長先生が話されたことばを思い出す。
「やるんだよ。どこまでもやるんだよ。」

これが校訓であつたかどうか忘れてしまったが、小学校を卒業して十年、今でも私の心にはつきり残っていることばである。

小学校の教師となつた今、自分の教える子どもたちに、一生心の支えとなるようなことばを、しっかりと心の底に刻みつけてやりたいと思う。

ただ、形ばかりの唱和で終わらせてはならない。

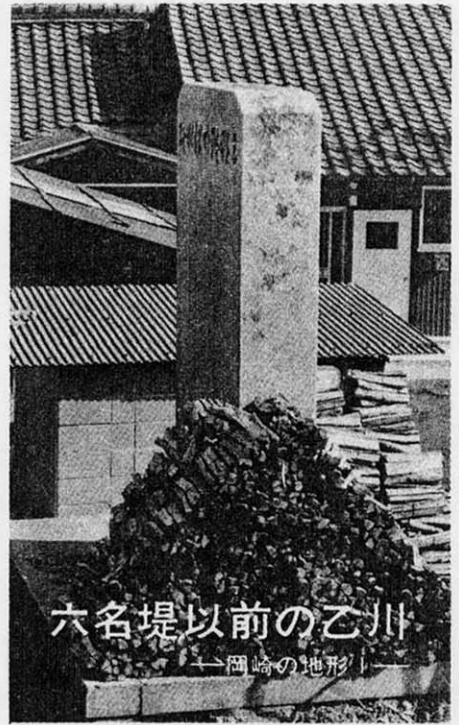
校訓もこういうように、いつまでも心に残るものであつてほしい。(羽根根小)

●生かす機会を

山田 一恵
子どもたちは、校訓をよく知っているし、その意味もひとりのことはわかっている。



ふるさとの自然



六名堤以前の乙川

→岡崎の地形

久後崎町の、明大公園西に写真のよう
な記念碑が建っている。明治六年の大洪
水で久後崎堤が決壊し、額田、碧海、幡
豆三郡にわたり家屋の流失、田畑の冠水
などの被害があり、四十三名が溺死した
のでその追悼のために建てたという。

ところで、この堤防が築かれたのは、
室町時代であるという。時の管領畠山基
国が、守護一色左京大夫詮範にあてた文
書で、「乙川の洪水を防ぐために築いた六
名堤のために、下和田郷一帯は用水に水
が来ないので困っているという。さつそ
く調べるように」という古文書（佐々
木文書、大日本史料第七篇之三）がある。
これは、社会科学部会の方々の労作、岡崎
の歴史物語八一ページに興味深くまとめ
てあるので参照いただけたらと思う。そ
れまでは度々乙川の流ればここからあふ
れ、六ツ美、西尾、幡豆方面に被害をお

よばしていたようである。

現在では矢作川の一支流として、天白
鉄橋付近で矢作川に合流している乙川の
流れは、地形的にどうも腑に落ちない
ところが多い。その一つは久後崎から天白
に向つてのびる洪積台地のこと、もう一
つはそこから上和田、野畑とのびて西尾
に至る自然堤防、これらにはさまれて、
古部川、広田川ぞいにみとめられる低湿
地の存在である。

六名台地ができだころ（およそ三万年
ほど前）には、明らかに乙川の流れがこ
こより南下して流れ、堆積物をつもらせ
ていた。これは、その堆積物の中に矢作川
特有のチャート礫が岡崎小学校付近まで
まったく見当たらないことでわかる。

また、最後の水期（一万年ほど前）、
海岸線が最も後退し、現在の河川が深い
谷を掘って流下していたころも、少なく

ても上和田付近は乙川の谷底であったこ
とが、岡多線工事の際のボーリング資料
等でうかがえる。

現在は矢作川の一支流にすぎない乙川
も、その昔は矢作川と並行して三河湾に
そそいでいた大河であった時もあるのだ
はないか、ということが言いたいのであ
る。かつて土呂本宗寺はその西を矢作川
の流れが洗い、淵をなしていたという。

これは乙川ではなかつただろうか。

このことを示唆してくれたのは、実は
筒針町の、村の篤学家武田勇さんである。
かなりのお年にかかわらず、農業のかた
わら勢力的にいろいろな資料を集めてみ
える。武田さんは、参河という名のおこ
りから、この岡崎平野を流れる幾条かの河
川からついたものと考えてみえる。堤防
というものなかつた昔、矢作川の主流
の他に乙川、鹿乗川、青木川、伊賀川な
どの河川が交差して流下し、その大きな
ものが三すじあつたのだらうというので
ある。かつての穂の国を流れていた豊川
までも参河に含めている定説よりも信頼
性の強い説であると思う。

ともあれ、有史以前には乙川の河床で
あつただろう六名の低湿地は、すでに跡
形もなく埋め立てられ、整地されて、県
下二番目といわれる立派な大体育館が竣
工間近である。そして、かつてのいたま
しい傷あとを記す石碑を、いまは気づく
人がほとんどない。何か、感慨無量の思
いがある。

（福岡小 竹内 昭次）

しかし、それが日常の生活の中に、十
分生かされているとは思えない。
なんとかしなければ、と考えている
次のような一文に出会った。

「僕みたいな者は、国語の学習委員にな
れるとは思っていなかったのに、選選ば
れて、とてもうれしかった。

みんなに喜んでもらえるような委員に
なりたいたい。」

ここに手がかりが見つかったような気
がした。決して成績のいい子でもないが
活躍の場さえ与えてやれば、意欲も力も
うんと伸びるのだ。

どの子にも場や機会を与えてやること、
これが校訓を子ども達の生活の中に生かす
ことになるのではないだろうか。（矢作中）

●実践を支える理念を

千田 水城

教育勅語的なお題目よりも、子ども
の生活の中から生まれた問題を大切にし、
これの一つ一つ話し合つて解決すること、
これがホンモノだと考えたが、実際は教
師の主観やご都合主義におちいつていた。
その後、「山びこ学校」の、六つの誓
い、「という生活指針を知り大きなショッ
クを受け、さらに、金沢嘉市氏の「よく
学びよく遊べ」の教育実践のすばらしさ
に、大きな感動を覚えたりした。

どの学校の校訓のことばは非のうちよ
うがないが、これを支える確かな理念と
子ども達の生活に即した着実な実践がない
と、まさに「絵にかいた餅」になつてし
まうのではないか。（東海中）

男川小



美合小



緑丘小



生平小



恵田小



奥殿小



細川小



美川中



南中



竜海中



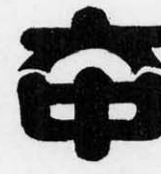
城北中



河合中



六ツ美中



矢・波・兜

六ツ美北部小



六ツ美南部小



矢作東小



矢作北小



矢作西小



矢作南小



矢作中



六ツ美中部小



校章

東海中



甲山中



大門小



竜美丘小

制定準備中

文字



連尺小



根石小



愛宕小



羽根小



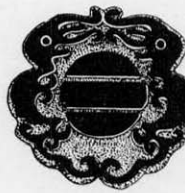
竜谷小



六名小



福岡中



三島小

動物

植物



岩津中



藤川小



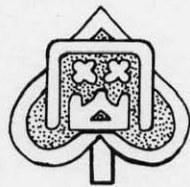
香山中



秦梨小



常磐東小



岡崎小



常磐小



井田小



常磐中



山中小



広幡小



大樹寺小



本宿小



葵中



梅園小



福岡小



岩津小



常磐南小

教職二年目の日記より

秦梨小 早川ひさ子

このノートは、
教師である私と、
四年生、男の子十三名、
女の子七名のもの。
その日々の触れ合いと、
あゆみを、
そつと書きとめた、
些細な小冊子。

二月二十三日(月)

一週間が始まった。お天気は暖かい。春の兆しだ。中庭の、必死に地にへばりつき、冬の寒さに耐え続けていたバンジーらも、今はその花弁を陽ざしに、大きく広げているようだ。

今朝の京介のようす、とても明るく、あの非京介の姿は徹塵も見当らない。清掃時、日常のきりつときびきびとした仕草も、漢字テスト、よくできている、十点満点で六点以下が四人。今日の、がんばりさんは何といつても清児君だ。九点をとった。日頃、漢字練習している成果が序々に芽をふいている。

二月二十四日(火)

今日は子どもをよく叱った。

二月二十五日(水)



昨日の想いが頭をもたげ、できるだけ笑顔で、子どもらへ接しようとする。

確かに、四年くらいの子らの瞬発的エネルギーは凄じいものだ。それが、今はトランプなどに興じている。

学力検査(算数)実施。

二月二十六日(木)

今日も晴、春日和が続く。校庭の白梅も、いつも駆ける神社への道すがらの、あの紅、白梅も今が盛りだ。

こんな二時間目の長放課。算数の箱作りを終えた子らに、「こんな気持ちのいい日に、外で何かしたら気持ちいいだろうな」と呟く。すると、誰かともなく「ソフトやろう」「ソフト」

聞きじょうず

美川中 石原耕平

と、一人、二人、五人と連れだつて出ていく。その後ろ姿に、ふとトランプ離れを始めた子らを見た。このソフトへのエネルギーよがよりふくらめ。

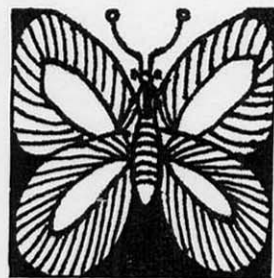
社会のグループ発表の熱が盛んになってきた。今は、以前に比べ、少しずつとにかくどんな小さなことでもいい、聞く態度で気づいたことと言ひ合い、学習の場を広げるようになった。

S男はコトバの不自由な生徒である。検診の結果、聴力にも異常のあることがわかった。体もみんなよりひとまわり小さい。これは誕生からこの子の背負った運命であつて、発音がよくなかったのも生後口で吸うことができず鼻から管を通したり注射によつて栄養の補給がなされたことも影響している。コトバの障害は当然コトバの正常な発達、学力の伸長のために重大な支障となる。また心理面にも大きな影をおとすことであろう。

入学してきた初対面の日、わたしは一瞬サリバン先生のことを思い自分と対比して考えてし

がいつばい頭の中にあるのだろうと思う。わたしは少なくともS男の話の最もよい聞き手にならねばと思った。S男だけでなく受けもつた生徒の話をそっくりそのまま聞いてわかつてやれる聞きじょうずな先生になろうと思う。毎日接する担任が真心こめて子どもの話を聞いてやることが心の通じ合える第一歩であろう。よい聞き手がいなければ子どもは自分から進んで話そうという意欲もたない。好ましくない聞き手ばかりまわりにおれば、自然に話の量も少なくなり話すことでの興味も満足感も成功感も味わうことができない。従つて話すことに消極的になつてしまふ。話すことに消極的な子は話すこと以外に消極的にさせてしまふ。わたしたちは自分の話すときは熱心だがそれ以上の熱意と誠意で子どもに話を耳を傾けよう。

S男は暗いところがなく積極的に自己主張の強い面があり、それが救いでもあつた。わたしを呼ぶとき必ず「センセ・センセ・センセ」と早口に三回くりかえす。「一回呼んでくれれば十分わかるよ」とわたしと言つたことがあるが、現在までこのままできている。このようにせきこんだ調子で言ってくるとき、わたしに聞いてもらいたいことがいっぱいある。異常を拡大視しないことが大切である。



創意・情熱・ゆとりをこそ

今年度学校教育の重点目標

【寄贈刊行物・資料等】
 ◇岡崎市小中学校校歌集
 現職教育委員会編
 既設四十九校の校歌（楽譜、歌詞）、制定の由来、時期、当時の思い出、校風と伝統のほか校章、写真も添えたユニークな資料集。B5判、百二ページ

◇人間性を育てる特別活動―動機づけの研究八年―南中学校
 教育課程の領域に「特別活動」が位置づけられた昭和四十三年以来の継続的研究の成果、八年間同一主題にしかも全校で取り組んだ姿が詳述されていて貴重。A5判二百二十八ページ。

純子▽六南中根五子、深津佳子（内養護教諭4名）
 ▽細川中佐藤真寿美、鈴木英子
 【中学校】三二名（男12女20）
 ▽甲山中榎原善太郎、稲吉治、西村安代、岡田康子、林綾子▽美川中中山秀文、荒木啓子、志賀咲子▽南中富樫章紀、鈴木尚子、山本美都子▽竜海一中家スミ子、山本佳代子、平野房子▽葵中野村広治、村田羽衣、井戸田静江、山中淳子▽城北中大島順子▽福岡尾崎弘明▽東海中浅野俊相、宮田富夫、原律子▽香山中水谷淳一▽岩津中米沢泰史、加藤己恵子、細江永子太田初美▽矢作中藤井哲也、鈴木栄二、河合真由美▽六ツ美中近藤恵子

【小中学校長会】会長山本修
 ▽副会長岩月栄治
 【小学校長会】会長岩月栄治（連尺）▽副会長都築孝太郎（根石）阿部俊房（梅園）▽評議員都築孝太郎、阿部俊房、畔柳栄一（六北）竹内正夫（岩津）太田富雄（岡崎）青木嘉夫（男川）▽庶務中塚惣十（福岡）▽会計権田梅芳（美合）
 【中学校長会】会長山本修（甲山）▽副会長板倉四郎（矢作）小笠原健治（城北）▽評議員板倉四郎、小笠原健治、谷正孝（美川）横山秀雄（南）滝口忠男（竜海）藤岡太郎（葵）▽庶務金山幸義（東海）▽会計横田純也（六ツ美）▽監査神谷卓爾（岩津）

四月定例の小中学校長会は十二日愛宕小で開催、指導・研修行事等を含めた本年度の各種教育計画の検討、協議、打合せを行なった。そのうち、教育重点目標として別記の事項が確認され、全市の共通理解をはかりながら実践の歩を進めることとした。

田錦司、坂田義範▽男川中岡本吉文▽美合中渥美純子、安形伊津子▽緑丘中都築敬子▽羽根中天野道晴、榎島奈緒子、加藤伸子、牧野恵、沢田恵美子▽岡崎中野々部幸枝、清水和江、渡辺君子▽六名中塩沢順治、牧原隆久、武田江利子▽三島中遠藤和宣、佐藤茂幸、神谷高代▽竜美丘中山幸一、金田知子▽連尺中広中達憲、法月真智子▽井田中小山英子、齊藤文子▽井田中渡辺政彦、神谷早苗▽愛宕中伴野俊幸、柴田満子▽福岡中権田隆志▽竜谷中渥美久美子、本多直子、浅岡澄代▽藤川中梅村京子、近藤典子▽山中中本多成光杉原実▽本宿中本田雅彦、佐野直美、藤井陽子▽生平中太田多津子▽秦梨中安藤恵子▽常南中

田口康幸、谷沢幸代、山田奈納子▽常東中長坂教子▽恵田中山本幸子▽奥殿中古川美智子▽岩津中冷泉俊明▽大樹寺中築瀬百合子、佐野勉▽大門中小沢弘、宇野知恵子▽矢東中辻村清孝、兵藤雅春▽矢北中佐々木公鷹▽矢西中藁輪由美子▽矢南中笠原晴美、坂井節、筒木栄子、加藤恵美代▽六中中古沢好子▽六北中山本恵子、黒柳直子、高橋

自由にして闊達な研究・研修を展開し、子どもたちの成長に直結する日常の教育実践を高めたい。①校内現職教育の充実をはかる②教育専門職としての教職教養・専門教養、一般教養の三分野についての研修に努める。③教育実践の評価を大切に、市内中学校間の交流を進める。④指導者を広く各界各層に求め、教師としての資質向上に努める。

三、ゆとりある教師の創造
 自然と人間、心と物との調和ある社会を築くため、溢れる教育的情熱で厳しさとやさしさを持つ教育を進めたい。①授業等の指導内容、並びに各種行事の精選・割愛をはかる。②地域社会との連携を密にし、子どもたちの生き生きとした校外生活の場の確保に努める。③心のゆとりを大切に、教師集団の連帯と協調を高める。

■期待の新規採用教員百七人
 新年度の学校の話題の中心は何といつても若い新卒の先生たち。本年度はまた、大門小、竜美丘小の新設、各校の学級増などがあつてこれまでの最多百七人（新規学卒の講師十人を含む）を数えた。各校毎の新任教員は次のとおり。

【小学校】七五名（男26女49）
 ▽梅園中岩月茂仁、平井孝代、岡田裕子▽根石中鈴木伸康、栗

【51年度学校教育の重点】
 一、地域に根ざした特色ある学校経営
 学校を中心として、教師ひとりひとりの能力を尊重し、創意に満ちた学校経営でありたい。①いのちを尊び、心や体を鍛えたくましく生き抜く力を養う。②深く考え、自ら学ぶ態度や習慣を育てる。③礼節を重んじ、心豊かな生活を築く態度を養う。

二、現職教育の活発化

二、現職教育の活発化

自在竜神

乙川の清流をさかのぼる途中の岩戸町地内に「自在竜神」の碑が建っている。作手街道から五十メートル程東に入った所に山を背に、赤い鳥居に祀られている。昔、この岩戸邑の城主であった天野大膳が、東加茂郡松平邑の城主であった徳川家康の先祖である松平氏初代の親氏に攻められて落城し戦死をした。その時、大膳の妻女がこの山に逃れて白竜となったと伝えられる。明治末年頃、この山にたき木を取りに来た村人らが、とぐろを巻くと畳半畳敷にもなる胴

廻り一尺程の大蛇を見て発病して死んだ。村の人が二人も亡くなったので、その大蛇はいったい何ものだろうと村の一人が岡崎の古い師に占ってもらった。すると「その蛇には昔怨みを抱いたまま亡くなった偉い方の奥方の霊がこもっているのです、ものすごい毒気がある。それを封じこめるには仏法の力にすぎるより道はない」ということであった。そこで早速この碑を建て、寺の住職を呼び七月十五日施餓鬼供養を行なった。それ以来、毎年この供養が行なわれている。



所在地 — 岡崎市岩戸町

カット 竜美丘小 内藤 浩子

けい(蛍)雪の功成って、ということばがある。三月卒業生を送り出し、四月新入生を迎える。子供たちの成長は速い。教師の年輪もまた一つ増えた。いたずらに馬鹿を重ねることのないよう自戒したい。

新設校が二校。前例に従って大過なく、とはいかない。伝統は守るものでもあるが、また創られるものでもある。創造の喜びと苦しみ。

ごけむし

最近広く主張されている自主性、主体性の育成も、子供を知ることなくしては、泡沫となる。

むしたちが目ざめ、つくしが頭を出し、タンポポの花開く春。

二(五)十一校の岡崎の小中学校が勢揃いした。百年の歴史と伝統を持つ小学校、戦後三十年を迎えようとしている中学校。この四月新生の大門小と竜美丘小それぞれ特色ある教育実践に励む。

学校の象徴として校章と校歌がある。校歌制定は戦後三十年の前年が二十五校、後半が二十一枚、歌詞は、高くそびえる山、清き流れなど自然の中で育つ子供の姿を理想としている。

し(知)るは愛するの初めなり、というのが、真に子供を知ることには、なかなか容易なことではない。しかしながら、このことは教育者にとって、きわめて重要な営みであり、あらゆる教育活動の源となるのである。端的に言えば、子供を知ること即教育といっても過言ではあるまい。

○日本人は死んだ M・トケイヤー

日新報道出版部 ¥ 八五〇

○自由企業体制の将来 正村公宏

ダイヤモンド社 ¥ 九五〇

○先生、一等になつて 児玉実雄

国際商業出版 ¥ 八五〇

○碑 中上健次

文芸春秋社 ¥ 八八〇

○戦国武将人間関係 大和勇三

PHP ¥ 八四〇

○民話の世界 杉谷みよ子

講談社 ¥ 三五〇

○追慕 渡辺愛吉先生 同刊行会

愛知新聞出版局 ¥ 一八〇〇

○日本列島の歴史 糸魚川淳二

講談社 ¥ 二七〇

○聖職の碑 新田次郎

講談社 ¥ 九八〇

○愛知の文化財めぐり 愛知県教育委員会

愛知県文化協会連合会 ¥ 八〇〇